

小学生のみなさん！ 英語を覚えて発表しよう！

小学生のみなさん、英語を楽しく学んでいますか？ 大口明光学園ではみなさんにもっと英語に親しんでもらえるよう、英語を覚えて発表してもらう大会を用意しました。日本語と同じように、英語も人と人の間で使うもの。英語で発表できるこの大会にぜひチャレンジしてください。

＜保護者のみなさまへ＞

第3回明光杯小学生英語暗唱大会は、英語に親しむ機会をつくり、英語への興味・関心を深めてもらえればと考え実施いたします。大会の日時、申込み等については下記をご覧ください。希望される方には、暗唱例を録音したCDを送付いたします（無料）。

記

日 時	平成30年7月29日（日）13：30開会（13：00受付）17：00閉会予定
場 所	大口ふれあいセンター3F多目的ホール
主催／後援	大口明光学園中学校・高等学校／伊佐市教育委員会
参加資格	英語を母国語としない小学4年生から6年生の男女 ※昨年度の本大会出場者はチャレンジコースのみ選択可
参加費	無料、参加者全員に参加賞有り
暗唱課題	1人あたり1分程度の文章、以下のコースより一つ選択 *選択の目安 ・ベーシックコース：Biscuit *英語学習歴1年未満 ・チャレンジコース：The Three Little Pigs *英語学習歴1年以上
申込期間	平成30年5月21日（月）～平成30年7月9日（月）必着
申込先	大口明光学園中学校・高等学校 英語科 宛 FAX：配布の申込書に記入の上送信ください（0995-22-0642，送信票不要） *FAXがない場合は電話でも申込みできます（0995-22-0609） *PCからの申込みフォームもあります。後日Web上でご案内いたします *申込みは個人・団体いずれでも可です *申込み状況によっては期日より前に申込みを締め切る場合もあります
問い合わせ	TEL：0995-22-0609 FAX：0995-22-0642（担当：矢崎）

申込書

参加児童名 学年・性別	ふりがな (年) (男・女)
選択コース [] に○を記入	ベーシックコース [] / チャレンジコース [] ※目安：英語の学習歴1年未満 / 英語の学習歴1年以上
住所	〒 TEL：
保護者名	学習塾よりお申し込みの場合：塾名 ()
小学校名	小 学 校

ベーシックコース・課題文／Biscuit／

This is Biscuit.
Biscuit is small.
Biscuit is yellow.
 Time for bed, Biscuit!
 Woof, woof!
 Biscuit wants to play.
Time for bed, Biscuit!
Woof, woof!
Biscuit wants a snack.
 Time for bed, Biscuit!
 Woof, woof!
 Biscuit wants his blanket.
Time for bed, Biscuit!
Woof, woof!
Biscuit wants a hug.
 Sleepy puppy.
 Good night, Biscuit.

<ベーシックコースの課題文について>

アメリカの子供たちに人気のある甘えん坊でかわいい子犬の **Biscuit** (ビスケット) のお話です。もう寝る時間なのに、飼い主の女の子に甘えている **Biscuit** の様子表現してみましょう。

この犬がビスケットです。
ビスケットの体は小さくて、黄色です。
 もう寝る時間よ、ビスケット。
 わんわん (ビスケット)
 ビスケットはまだ遊びたいみたい。
寝る時間よ、ビスケット。
わんわん (ビスケット)
ビスケットはおやつがほしいみたい。
 寝る時間よ、ビスケット。
 わんわん (ビスケット)
 ビスケットは自分の毛布がほしいみたい。
寝る時間よ、ビスケット。
わんわん (ビスケット)
ビスケットはハグしてほしいみたい。
 ねむくなってきたのね。
 おやすみ、ビスケット。

チャレンジコース・課題文／The Three Little Pigs／

Once upon a time, there were three little pigs. The first pig built his house out of straw.

“That was easy,” he said. The second pig built his house out of wood.

“It was cheap,” he said. The third pig built his house out of bricks.

He said, “That wasn’t easy and it wasn’t cheap, but my house is strong.”

The big bad wolf knocked at the door of the first pig’s house. He said:

“Little pig, little pig, let me come in, let me come in.”

“No,” said the pig. “I won’t let you in.”

The wolf shouted: “Then I’ll huff and I’ll puff, and I’ll blow your house down.”

And he did. The first pig ran to the second pig’s house.

Then the big bad wolf knocked at the door of the second pig’s house. He said:

“Little pig, little pig, let me come in, let me come in.”

“No,” said the pig. “I won’t let you in.”

The wolf shouted: “Then I’ll huff and I’ll puff, and I’ll blow your house down.”

And he did. The first pig and the second pig ran to the third pig’s house.

Then the big bad wolf knocked at the door of the third pig’s house. He said:

“Little pig, little pig, let me come in, let me come in.”

“No,” said the pig. “I won’t let you in.”

The wolf shouted: “Then I’ll huff and I’ll puff, and I’ll blow your house down.”

The wolf tried again and again, but he couldn’t blow the house down.

So the wolf climbed up onto the roof.

“Ha, ha, ha,” he said. “I’ll go down the chimney and I’ll eat all of you for supper.”

At that time, the third pig was cooking a big pot of soup on the fire, so when the wolf went down the chimney, he fell into the hot soup.

“Ow! Help!” he cried.

Then he jumped out of the pot and ran away as fast as he could. The three little pigs lived happily ever after in the house built of bricks, and they never saw the big bad wolf again.

<チャレンジコースの課題文について>

みなさんよくご存じの3匹の子ブタのお話です。昔、よく聞いたお話の内容を思い出しながら、練習してみましょう。

昔々、あるところに3匹の子ブタがいました。一匹目の子ブタは、わらで自分の家をたてました。「簡単なもんだ。」と彼は言いました。二匹目の子ブタは、木で自分の家をたてました。「安いもんだ。」と彼は言いました。三匹目の子ブタは、レンガで家をたてました。彼は「簡単でもないし、安くもないけど、僕の家はがんじょうだぞ。」と言いました。

そこへ大きな悪いオオカミがやってきて一匹目の子ブタの家のドアをノックしました。「子ブタ君、子ブタ君、俺を中に入れてくれよ。」
「いやだね。」と子ブタは言いました。「絶対に入れないよ。」
すると、オオカミはこう叫びました。「じゃあ、おれがぷーぷー息を吹きつけて、お前の家をふきとばしてやるぞ。」そうして、オオカミは家を吹き飛ばしてしまいました。一匹目の子ブタは二匹目の子ブタのところへ走っていきました。

すると、大きな悪いオオカミは二匹目の子ブタの家のドアをノックしました。「子ブタ君、子ブタ君、俺を中に入れてくれよ。」
「いやだね。」と、子ブタは言いました。「絶対に入れないよ。」
すると、オオカミはこう叫びました。「じゃあ、おれがぷーぷー息を吹きつけて、お前の家をふきとばしてやるぞ。」そうして、オオカミは家を吹き飛ばしてしまいました。一匹目の子ブタと二匹目の子ブタは、三匹目の子ブタのところへ走っていきました。

大きな悪いオオカミは三匹目の子ブタの家のドアをノックしました。「子ブタ君、子ブタ君、俺を中に入れてくれよ。」
「いやだね。」と、子ブタは言いました。「絶対に入れないよ。」
すると、オオカミはこう叫びました。「じゃあ、おれがぷーぷー息を吹きつけて、お前の家をふきとばしてやるぞ。」そうして、オオカミは何度も家を吹き飛ばそうとしましたが、できませんでした。

そこで、大きな悪いオオカミは家の屋根によじ登りました。「わははは、」と、彼は言いました。「この煙突からおりて、お前たちみんなを俺様の夕食にしてやるぞ。」
ちょうどその時、三匹目の子ブタは暖炉で大きな鍋でスープを作っていました。そこへ煙突から降りてきたオオカミは、その熱々のスープの中に落ちてしまいました。
「わあ、助けてくれ！」とオオカミは叫びました。

それからオオカミは鍋から飛び出し、命からがら逃げていきました。その後、三匹の子ブタは、ずっと仲良くレンガの家で暮らし、二度とオオカミに出会うことはありませんでした。